

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	薬 業		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	衛生化学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 火曜1時限	教室名	4校舎502
担 当 教 員	足立 伸一	実務経験と その関連資格	大阪府立公衆衛生研究所(現:大阪健康安全基盤研究所)生活環境課の研究職(薬剤師)として公衆・環境衛生に関する調査研究を実施した。また、保健所職員・大学生等に対し研修・指導を行った。			
《授業科目における学習内容》						
衛生化学とは、ヒトの健全な生活を確保し、病気を予防するため、食品及び環境中のあらゆる物質や事象とヒトとの関わりを探求する幅広い学問分野です。日常生活に密接した分野であり、医薬品に関連する職業に就くうえにおいて、修得しておくべきと考えられる箇所に重点を置き講義を行う。また、それらの試験・検査手法等に関しては、実際に現場で採用されている方法を中心に紹介したい。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験70%、復習テスト20%(不定期に実施)、平常評価10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:シンプル衛生公衆衛生学2023年版 小山 洋(監修)辻 一郎、上島 通浩(編集) 南江堂						
《授業外における学習方法》						
授業後、教科書の該当部分及び配布資料等を読み直してください。また、授業中に学習した内容を日常生活における現状と比較し、有用・有効性を検証してみてください。						
《履修に当たっての留意点》						
衛生化学は、皆さんが今後、就かれる業務上はもちろん、日常生活をおくる上においても重要なものとなりますので、基礎からよく理解してください。教科書以外に必要な資料も配布しますので、理解を深めるため参考としてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトを取り巻き影響を及ぼす多方面にわたる環境因子についてどのようなものがあるか把握することができる	配布資料	教科書Chapter6を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	多方面にわたる環境因子について、それぞれのヒトに対して与える影響や作用機序等を理解し、どのように対処すべきかを理解する			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間の産業活動等の拡大に伴いもたらされた、各種の環境汚染等について歴史的背景、経緯、対応等を把握することができる	教科書	教科書Chapter6-10, 11を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	四大公害を中心として、その背景、原因、人体影響等を把握することにより、産業活動とヒトの生活環境との関係性、調和等について理解する			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの感染症を中心として、その原因等について把握することができる	配布資料	教科書Chapter5-1, 6-5を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	感染症の原因となる多種多様な微生物等について、それぞれのヒトに対する影響等を把握し対応策を考える			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症を防ぐために定められている各種法律等に付いて理解することができる	配布資料	教科書Chapter5-1, 6-5を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	感染症法、予防接種法等の感染症と関連する法律等について、感染症の種類、その目的、有効・実効性等について解説する			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症を防ぐための各種手法について理解することができる	教科書	教科書Chapter5-1, 6-5を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	感染症を防ぐための殺菌・滅菌、消毒、ワクチン、薬剤(殺菌剤、抗生物質等)等の多くの技術、手法、薬剤等について理解し、有効性について把握できるよう説明する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	生物が生命活動を営むうえに必須である水を取り巻く環境についてグローバルに理解することができる	教科書	教科書Chapter6-7を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	ヒト(生物)として必要欠くべからざる水について、その安全性の確保のために水道法等が果たしている役割について説明する		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本において安全な飲用水の供給において大きな役割を果たしている水道水について理解することができる	教科書 配付資料	教科書Chapter6-7を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	平素の生活において特別に意識することなく利用している水道水について、その水質基準、処理方法、現状の問題点等について理解していく		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活環境を取り巻く放射線(放射能)について正しく理解することができる	教科書	教科書Chapter6-3を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	地球上に住む生物(ヒト)はあらゆる方面(宇宙、地質、環境水等)から発せられる放射線を完全に遮断することのできないことを理解し、医療用の放射線等も含め、その生体影響について説明する		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトが生活活動に伴い排出す廃棄物(排水も含む)について正しく理解することができる	教科書	教科書Chapter6-8, 10を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	ヒトが生活活動を営むうえにおいて、し尿も含め避けることのできない廃棄物において、一般・産業廃棄物の区分、排出量、適正な処理方法について説明する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	幅広い食の安全性について多方面より理解することができる		
		各コマにおける授業予定	食の安全を守るためには自然毒物、農薬、食品添加物、細菌・ウイルスによる食中毒等々、多方面の注意を払う必要があり、それぞれの要因について理解・把握する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	近年、食に対する情報があふれており、その信ぴょう性について理解できる	教科書	教科書Chapter4-3, 6-9を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	安全とされる食品を摂取しても、摂取方法・量等により身体に害を及ぼすことも考えられるため、種々の方面より検討する		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの日常生活を取り巻く多種多様な家庭用品についての規格、安全性について理解できる	配布資料	教科書Chapter6-9を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	日常使用されている家庭用品に関して、どのような法律、規格等が設けられているかを理解し、その意義について考えてみる		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒトの健康に大きく関与する食品の影響について理解できる	教科書 配布資料	教科書Chapter5-4, 6-9を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	安全とされる食品を摂取しても、摂取方法・量等により身体に害を及ぼすことも考えられるため、種々の方面より検討する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	産業保健は種々の仕事により生じる労働災害、職業病、作業関連疾患、精神衛生上の問題等、多方面にわたっていることを理解する	教科書 配布資料	教科書Chapter10を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	産業保健は労働災害、職業病等の肉体的障害の他、近年では精神衛生上の健康面も重要視されており、健全な職場環境の醸成についての対応策について説明する		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1～14回の復習をすることでこれまでの授業の定着を図り理解度を向上することができる	教科書 これまでの配布資料	教科書と配布資料を最低2回は読みなおすこと
		各コマにおける授業予定	これまでの復習(総まとめ)		